

利尻町立博物館所蔵「鴛泊灯台 例規公文簿」について

山谷文人

〒 097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野 利尻富士町教育委員会

A Report on "Oshidomari Lighthouse Reiki-Kobunbo" Owned by Rishiri Town Museum

Fumito YAMAYA

Rishirifuji Town Board of Education, Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan

Abstract. The Oshidomari Lighthouse was first lit in 1892. "Oshidomari Lighthouse Reiki-Kobunbo" records information about the management of this lighthouse from 1892 to Showa Period. This document is valuable considering the process of the management from establishment of the lighthouse as well as lighting instrument.

はじめに

2020年、鴛泊灯台の旧灯器が、利尻富士町開町140周年・町名変更30周年を記念した特別展「海を通じた利尻富士町の140年」のメイン展示資料として、カルチャーセンターに運搬・設置された。あわせて、稚内海上保安部や利尻町立博物館所蔵の鴛泊灯台に関する文書を灯器とともに展示した。

今回紹介する「例規公文簿」については、展示資料の調査過程で利尻町立博物館に所蔵されていることが見出されたものであるが、同様の文書が稚内海上保安部にも所蔵されている。博物館所蔵のものは（参考用）とあることから、その副本にあたると思われる。

鴛泊灯台について

鴛泊灯台は、利尻礼文両島初の灯台として1892年12月15日に点灯された。写真1のように、当時は切石を積み上げ白く塗装された円形の石造りで、高さ約6メートル、道内初の石造灯台としては後にも先にも唯一であったことが知られている。

旧回転式灯器は、フランスのソーターハーレー

社で製造されたもので、“SAUTTER HARLE Cie PARIS 1892”と刻印されており、六面構成の第六等閃光レンズと転軸式回転機械が付属されたものである。この灯器は、1953年10月まで使われ、石油ランプ等を用い、錘が下がる力で回転させていたが、1923年に自家発電装置により電気をつくっ

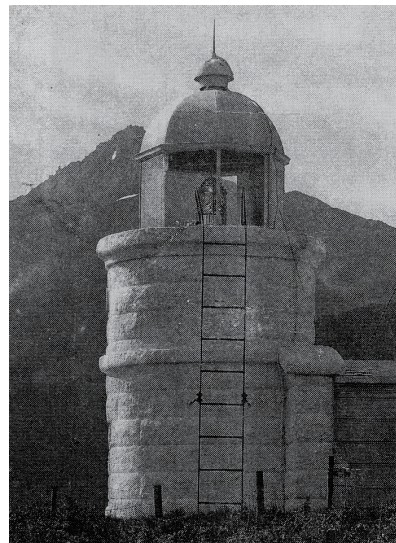


写真1. 初代鴛泊灯台。

て点灯するようになったとされる。

例規公文簿について

本資料は、1992年頃に博物館で受け入れた荒木健三コレクションに含まれる (KAr1766)。荒木氏がどのように入手されたのかは定かではないが、おそらくは灯台管理の移転等に伴ってであろう。文書は、表紙に「例規公文簿」「鴛泊燈臺」、赤字で左上に「永久保存」、右上に「(参考用)」と記載され、「鴛泊灯台資料 自明治25年 至昭和17年」という背表紙が付されている。タテ26cm, ヨコ18cm, 厚さ5cmを測り、各件が綴られた1冊の簿冊である(写真2)。1892年の初点以来、昭和期にかけての灯台管理に関する情報が記録されている。

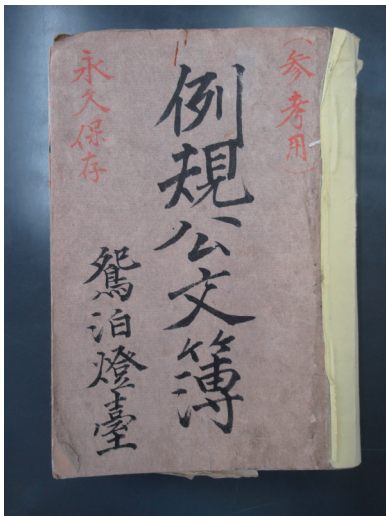


写真2. 例規公文簿の表紙。

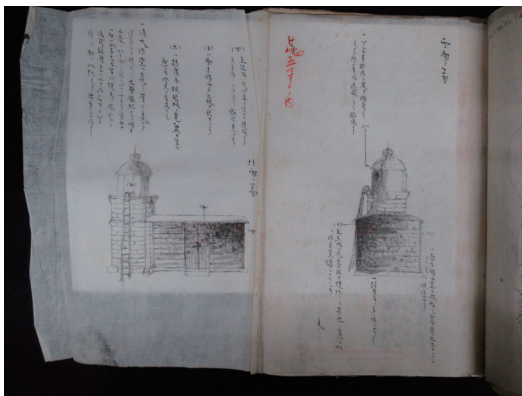


写真3. 火災関係書類中のスケッチ。

本稿では、全件名を表1にまとめ、その中からいくつか重要と思われる件について以下に紹介する。

編纂番号1～5・8は、1892年の初点に関する

表1. 「例規公文簿 鴛泊灯台」件名目録

編纂番号	件名	西暦	和暦
1	燈台明孤ニ関スル件	1892	明治25
2	初点告示ニ関スル件	1892	明治25
3	点燈告示文ニ関スル件	1892	明治25
4	点燈命令電報并点火届	1892	明治25
5	気象観測開始ニ関スル件	1892	明治25
6	曲射玻璃新瑕瑣報告ノ件	1894	明治27
7	写財産異動報告ノ件	1894	明治27
8	附属井戸水質ニ関スル件	1892	明治25
9	返納物品受授手続		
10	公文発送番号冠字ノ件	1894	明治27
11	敷地境界標建設ノ件	1894	明治27
12	携帯物品保管規程	1895	明治28
13	敷地受領ニ関スル件	1896	明治29
14	昼夜間交代方其他注意ノ件	1895	明治28
15	看守日誌記載方ノ件	1895	明治28
16	私事関係願書類ノ郵税等ニ関スル件	1895	明治28
17	難破船報告ハ二通提出ノ件	1895	明治28
18	敷地崩壊届ノ件	1896	明治29
19	敷地ノ一小部ヲ乾場ニ使用セシメタル件	1897	明治30
20	火舎棚新調ニ関スル件	1897	明治30
21	通路石垣積立ニ関スル件	1899	明治32
22	同	1901	明治34
23	燈台玻璃板瑕瑣ニ関スル件	1900	明治33
24	巡回各燈台へ注意事項	1901	明治34
25	井戸側及井戸屋形修繕ニ関スル件	1901	明治34
26	百葉箱据付ニ関スル件	1902	明治35
27	日晷儀基礎修繕ニ関スル件	1902	明治35
45	火災関係書類	1900	明治33
	小使ニ関スル件	1905-1931	明治38-昭和6

雑件		昭和
1	経費節約ノ件	1904 明治37
2	判任官賀表捧呈ノ件	1886 明治19
3	勤儉貯蓄ニ関スル件	1924-1926 大正13-15
4	注油ニ関スル件	1897-1910 明治30-43
5	飲水運搬人夫備役ノ件	1900-1913 明治33-大正2
6	井戸ニ関スル件	1908 明治41
7	井水使用ノ件	1915-1936 大正4-昭和11
8	御大喪儀ノ件	1914-1919 大正3-8
9	気象観測ニ関スル件	1910-1917 明治43-大正6
10	地震観測廃止ノ件	1918 大正7
11	備人臨時増給ノ件	1917-1920 大正6-9
12	服務成績報告ノ件	1911-1929 明治44-昭和4
13	軍籍ニ関スル件	1918 大正7

表1. (続き)

参考用	例規公文簿		昭和13 年以降
1	光源用電燈料金減額承諾書	1926	大正15
2	本燈用電球新換方ノ件	1929	昭和4
3	電球料金減額ノ件	1931	昭和6
4	水汲人夫傭役ノ件	1931	昭和6
5	水汲人夫供給契約者変更ノ件	1936	昭和11
6	気象観測及通過船記帳廃止ノ件	1931	昭和6
7	冬季間燈台当直場所ニ関スル件	1931	昭和6
8	給水料金請求手続ニ関スル件	1936	昭和11
9	電力供給承諾書	1937	昭和12
10	水運搬賃値上ニ関スル件	1937	昭和12
11	水汲人夫供給契約変更ニ関スル件	1938	昭和13
12	電力供給承諾書	1923	大正12
13	電燈供給請負人変更方ノ件	1928- 1929	昭和3-4
14	電燈供給変更承諾書	1938	昭和13
15	傭人進退内規ニ関スル件	1914- 1920	大正3-9
16	現内閣ノ政綱具現徹底方ニ関スル件	1939	昭和14
17	特別慰勞金給与ニ関スル件	1939	昭和14
18	臨時人夫傭役ノ件	1939	昭和14
19	臨時補助人夫供給請負人変更ノ件	1939	昭和14
20	臨時補助人夫供給請負料増額ノ件	1940	昭和15
21	臨時補助人夫供給請負人変更ノ件	1941	昭和16
22	興亜奉公日設定ニ関スル件	1939	昭和14
23	燈台局分掌規程中改正ノ件	1941	昭和16
24	臨時補助人夫供給請負費値上ノ件	1941	昭和16
25	臨時家族手当ニ関スル件	1940	昭和15
26	水汲人夫年額供給請負契約一時中止ノ件	1939	昭和14
27	臨時補助人夫年額請負人変更ニ関スル件	1942	昭和17
28	臨時補助人夫解備並ニ水運搬執行ノ件	1942	昭和17
29	電燈供給請負人変更ニ関スル件	1939	昭和14

告示や電報、気象観測、井戸など、灯台設置を示す記録として重要である。2については、通信省告示第287号であり、灯台の位置や高さ、閃光の方位、姿かたちが「石造円形にして白色に塗り」との記載がある。なお告示文は、国立公文書館のデジタルアーカイブでも公開されている（国立公文書館、公開日不明）。

21は、灯台通路に設置された石垣に関する件で、工事仕様書と図面が付されている。ここには、請負人である石工職として、福岡菊太郎の氏名が見える。菊太郎については、以前にご子孫の福岡利二氏（元利尻富士町文化財保護専門委員）より、石工であったことを聞いたことがあり、本資料には見当た

らないが灯台躯体も切石を積み上げたものであることから、同氏の手になるものであろう。

27は、日晷儀(日時計)の基礎修繕に関する件で、こちらも福岡菊太郎による仕様書や図面が付されている。

45は、1900年に起きた火災関係の書類で、外観や間取りを含めた被災のようすが、くわしくスケッチされている(写真3)。

灯台の動力源については、はじめにふれた通りだが、電力供給へ切り替えたことを証明するものとしては、「参考用 例規公文簿」の12にあたる1923年の電力供給承諾書で、これ以外にも同様な書類が綴られている。

まとめ

以上、簡単に例規公文簿を概観したが、本資料は近代以降の灯台の設置から管理の過程を考えるうえで重要であり、灯器とともに一次資料として、鴛泊灯台の由緒に迫ることができる貴重なものである。今後も引き続き資料の調査を継続し、その価値を見出していきたい。

末尾になるが、本資料の存在についてご教示いただいた鈴木祐尚氏、佐藤雅彦氏をはじめ、件名の翻刻にご助力いただいた石川淳氏、日頃より灯台資料について情報提供いただいている山本雅晴氏に、記して感謝申し上げたい。

参考文献

- 国立公文書館、公開日不明、通信省告示第287号 北海道北見国利尻島鴛泊湾ノ北西端ニ建設ノ灯台ニ於テ第六等回転白色ノ灯明ヲ点火。公文類聚・第十六編・明治二十五年・第三十九巻・交通五・道路橋梁・河川港湾・雑載：<https://www.digital.archives.go.jp/item/1674411> (2021年10月27日閲覧)
- 山谷文人、2020、鴛泊灯台旧回転式灯器の里帰り。燈光, 66(1): 43-45.